

復興の生活をして、牧養の働きをすることによって、
主の来臨のために自分自身の用意を整える

聖書：Ⅱコリント 4:16-18．ヨハネ 21:15-17

- I. わたしたちは主の来臨のために自分自身の用意を整えるために、復興の生活、すなわち、日ごとに更新される生活をすることによって、わたしたちの勝利を維持する必要があります(Ⅱコリント 4:16-18)。この更新は朝ごとに新鮮にされなければなりません(マタイ 13:43．ルカ 1:78-79．箴 4:18．士 5:31)：
- A. わたしたちは朝早く主を享受して、日ごとに新しい開始を持たなければなりません——詩 119:147-148。
- B. わたしたちは朝ごとに主イエス、わたしたちの太陽にわたしたちの中で昇っていただくべきです。それによってわたしたちは更新されることができます——ルカ 1:78-79．マラキ 4:2．士 5:31：
1. わたしたちは朝早く起きて、主と交わるべきです。そしてわたしたちは次のように祈ることができます、「主よ、新しい開始のゆえに感謝します。どうか今日がわたしの人生において記念すべき日となりますように」。これが、わたしたちが朝ごとの復興と呼んでいるものです。
 2. わたしたちは、朝ごとにキリストがわたしたちの罪のためのささげ物であることに基づいて、彼をわたしたちの全焼のささげ物と平安のささげ物としてささげるべきです。それによってわたしたちは新しい開始を持ちます。わたしたちはこのことを毎日行なわなければならないだけでなく、また甘さと深さをもってそれを行なわなければなりません——レビ 6:12-13。
 3. 朝ごとにキリストをわたしたちの全焼のささげ物として取ることは、彼を神の満足のための絶対的な生活をした方として、またわたしたちにそのような生活をさせることができる命として取ることです——1:9．6:12-13．ヨハネ 5:19，30．6:38．7:18．8:29。
- C. わたしたちは復興の生活をするために、極みまで主を愛し、彼に生きる人となって、キリストを最も満ち満ちた程度にまで享受し、獲得することを日ごとの目標としなければなりません——Ⅰコリント 2:9．Ⅱコリント 5:14-15．ピリピ 3:14。
- D. わたしたちは祭壇と天幕の生活をする人でなければなりません——創 12:7-8．13:3-4，18：
1. 神がわたしたちに現れることは、わたしたちの献身を生み出し、わたし

たちに祭壇を築かせます。祭壇は、わたしたちであるすべてとわたしたちが持っているすべてを、神の定められた御旨のために神にささげることによって、神を礼拝するためです。祭壇を築くことが意味するのは、わたしたちの生活が神のためであること、神がわたしたちの命であること、わたしたちの生活の意義が神であることです——8:20-21 前半、出 29:18-22。

2. 天幕の生活をするとは、わたしたちが地上で他国人また寄留者であって、さらにまさったふるさとを追い求めており、神が建造した都、新エルサレムを熱心に待ち望んでいることを宣言することです——ヘブル 11:9-10, 13, 16。

E. 日ごとに更新される復興を持つことは、日ごとに新鮮な造り変えを持つことです。わたしたちは全生涯この造り変えの中にとどまるなら、主の命において成長し、ついに円熟するに至ります——ローマ 12:2. II コリント 3:18. ヘブル 6:1 前半。

F. わたしたちは四つの項目を通して日ごとに更新されます。それは、十字架 (II コリント 4:10-12, 16-18)、聖霊(その聖霊によってわたしたちは神聖な命をもって改修され、造り直され、改造されます——テトス 3:5)、わたしたちのミングリングされた霊(エペソ 4:23)、神の聖なる御言葉です (5:26)。

G. わたしたちは新しさの中で主の食卓に来る必要があります(マタイ 26:29)。主は決して古い食卓にあずかりません。わたしたちは、「すみません。わたしを赦してください」と言うことを学ぶことによって、更新される必要があります。

H. わたしたちは苦難のただ中にいるとき、朝ごとに主の新しいあわれみを受ける必要があります。それによってわたしたちは彼の更新を経験します。そうでなければ、わたしたちは同じままであり、わたしたちが経過する苦難は無駄になってしまうでしょう——哀 3:22-24. II コリント 4:16-18

II. わたしたちは主の来臨のために自分自身の用意を整えるために、以下のことによって、わたしたちの勝利を維持する必要があります。すなわち、キリストの天の務めにあずかり、彼の小羊を養い彼の羊を牧養して、神の羊の群れ、すなわち、召会を顧み、その結果キリストのからだをもたらすことによってです——ヨハネ 21:15-17. I ペテロ 2:25. 5:1-4. ヘブル 13:20-21 :

A. わたしたちは主イエスの務めの模範にしたがって人々を牧養して、神の

永遠のエコノミーを完成する必要があります——マタイ 9:36．ヨハネ 10:11．ヘブル 13:20．Ⅰペテロ 5:4：

- 1．わたしたちが御父の愛し赦す心と、救い主の牧養し捜し求める霊を持っていないことが、わたしたちが実を結ばないことの原因です——ルカ 15:1-24。
 - 2．わたしたちはイエスの人性において人々をはぐくむ必要があります(彼らを幸いにし、彼らに喜ばしく心地良いと感じさせる——マタイ 9:10．ルカ 7:34)。わたしたちは、キリストの神性において人々を養う必要があります(三つの時期から成るキリストの務めにおける、すべてを含むキリストをもって彼らを養う——マタイ 24:45-47)。
 - 3．キリストがサマリアを通過しなければならなかったのは、意図的にスカルに回り道をして一人の不道德な女を得て、ご自身に飲ませてくれるように彼女に求めることによって彼女をはぐくみ、命の水の川としての流れる三一の神をもって彼女を養うためでした——ヨハネ 4:3-14。
 - 4．主は罪のない方として、姦淫^{かんいん}の女を罪定めたのではなく、彼女をはぐくんで法理的な面で彼女の罪を赦し、有機的な面で彼女を罪から解放しました(8:1-11，32，36)。またキリストによって彼の十字架を通して救われた最初の者が、死刑の宣告をされた強盗であったことは意義深いのです(ルカ 23:42-43)。
 - 5．主がエリコに行ったのは、一人の人、すなわち、取税人のかしらを訪問して得るためでした。彼の宣べ伝えは牧養でした(19:1-10)。彼はまた、子供たちの上に手を置くことによって両親たちをはぐくみました(マタイ 19:13-15)。
 - 6．昇天した主は、金の燭台^{しよくだい}としての諸召会を顧みることににおいて、「歩くキリスト」であり、「語る霊」です。彼は諸召会のただ中を歩くことによって、それぞれの召会の状態を知るようになります。それから、彼は見ている事にしたがって、わたしたちに語ります。それによって諸召会のすべての聖徒は、新陳代謝的に、また有機的に造り変えられます。その目的は、彼らを彼の勝利者とすることです——啓 1:12-13．2:1，7。
- B．わたしたちは使徒パウロの模範にしたがって人々を牧養する必要があります。パウロは養う母として、また勧めをする父として聖徒たちを牧養して、神の羊の群れを顧みしました——Ⅰテサロニケ 2:7-8，11-12．Ⅰテモテ 1:16．使徒 20:28：
- 1．パウロがエペソの聖徒たちを牧養したのは、彼らに「公にも、また家から

家でも」教えることによってであり(20 節)、また三年の間、聖徒たち一人一人を涙をもって訓戒し(31, 19 節)、彼らに神のみこころをすべて言い表すことによってでした(27 節)。

2. パウロは、信者たちに対して親密な心遣いを持っていました(Ⅱコリント 7:2-7. ピレモン 7, 12 節)。彼は弱い者たちの水準に下って来たのは、彼らを得ることができるためでした(Ⅱコリント 11:28-29. I コリント 9:22. 参照、マタイ 12:20)。
3. パウロは喜んで聖徒たちのために、彼が持っているもの(彼の財物)を費やし、彼であるもの(彼自身)を使い尽くしました(Ⅱコリント 12:15)。彼は注ぎのささげ物であって、ぶどう酒を生み出す方としてのキリストと一であり、自分自身を犠牲にして他の人たちにキリストを享受させました(ピリピ 2:17. 土 9:13. エペソ 3:2)。
4. パウロはその霊によって歩いて神を尊びました。それによって彼はその霊を人に供給して、人を尊ぶことができました——Ⅱコリント 3:3, 6, 8. ガラテヤ 5:16, 25. 土 9:9。
5. パウロが彼の教えの中で示したのは、召会が人々を育てる家庭であり、彼らをいやし回復する病院であり、彼らを教え啓発する学校であるということです——エペソ 2:19. I テサロニケ 5:14. I コリント 14:31。
6. パウロが啓示したのは、キリストのからだを建造するために、わたしたちが何であっても、何を行なっても、愛が最も卓越した道であるということです。愛はまします——8:1. 12:31. 13:4-8 前半. エペソ 1:4. 3:17. 4:2, 15-16. 5:2. 6:24. 啓 2:4-5. コロサイ 1:18 後半. I テサロニケ 1:3。